

## ② 投げウキサビキスタイル

潮目やカケアガリなどへ投入し、沖めを回遊する良型のアジやサバを狙うスタイルです。カゴに刺し餌をつけたオマケバリエをセットすれば、グレ・青物・チヌなども含めた賑やかな釣果も期待できます

### ウキ止め

位置をかえることでウキ下の長さ（タナ）を調整することができます。種類は糸とゴムの2タイプがありますが、太い道糸を使う場合は糸タイプを選ぶのがベストです。

**シモリ玉**  
ウキがウキ止めを通過しないようにするためのアイテムです。使用する道糸が通る穴径のものを選びましょう。穴がテーパー状になっているものは太い方から道糸を通します。ウキの足にあるカンにシモリベツト（シモリ玉つきのスナップサルカン）を使うときは不要です。

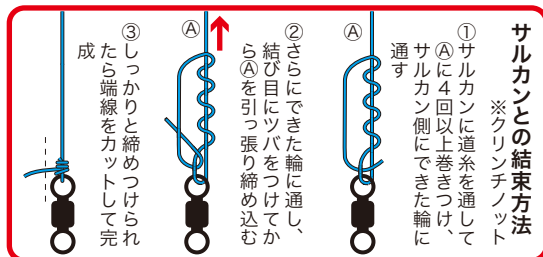
### サビキウキ、棒ウキ8~10号

カゴの自重に合った号数を選びます。シビアなアタリをとる釣りではないためプラスチック製の安価なサビキウキで十分です。もちろん、発泡タイプの棒ウキなど浮力を備えたその他のウキを使っても問題ありません。カラーは視認性のよい蛍光のイエローやオレンジが一般的ですが、逆光時は黒いカラーが見やすいとされています。

### ウキ止めゴム（サルカンからの距離はウキの全長+約5㍎）

仕掛けとウキがからまないようにするためのストッパーとしてヨウジで止めたゴム管をセットします。

### 道糸とサルカンの接続はクリンチノット



### 市販の遠投用サビキ仕掛け6~8号

小アジ狙いのサビキ仕掛け（ハリス0.4~0.8号）では30㍎級のアジなどの強い引きを見せる魚に太刀打ちできません。ハリス2~4号、ハリ6~8号程度で「遠投用」や「大物用」などと表記されているサビキ仕掛けを選びましょう。強度のある船釣り用のサビキ仕掛けを使用するのもあります。ただし、そのままでは仕掛けの全長が長いので半分にカットするなど適度な長さ（1.5㍎前後）にして使用しましょう。

### サビキ用のドンブリカゴ8~10号前後

使用するウキのオモリ負荷に合わせた号数を選びましょう。その他の考え方は竿下狙いのスタイルと同様です。また、天秤がついたサビキカゴを使用し、オマケバリエをセットするのもおすすめです。うまくいけば良型のグレやチヌなどが期待できます。その際の仕掛けはハリス2~3号20㍎前後、チヌバリ2~3号やグレバリ5~7号が一般的です。餌は刺しアミ、沖アミ、アオイソメなどをセットすればいいでしょう。ただし、天秤つきのものを使うとアミエビをカゴに入れるのに便利な吸い込みバケツが使えなくなります。そのかわりに専用のスプーンや割り箸など、アミエビをカゴに入れるためのアイテムを用意しておきましょう。

### 道糸：ナイロン3号

トラブルが少なく扱いやすいナイロンが基本です。沖めを狙うことを考えると、潮にもたれにくいフロートタイプがおすすめです。号数は3号で十分です。

**磯竿3号5㍎前後（遠投タイプ）、投げ竿15~20号4㍎前後**  
8~10号前後のカゴを仕掛けを無理なくキャストできる磯竿3号クラスや、15~20号程度の投げ竿が基本です。一般的な磯竿でも釣りは可能ですが、飛距離が出やすい大型のガイドを備えた遠投タイプがベターです。

### スピニングリール 3000~3500番

使用する道糸が150㍎ほど巻けるサイズを用意しましょう。遠くまで仕掛けを流すため、回収がラクなハンドルの回転性がよいものがおすすめです。

